

# 令和6年3月行事予定

1	金	卒業式
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	火の①～⑥ 40分授業
6	水	水①②+大掃除(20分)+入試前日準備 ☺
7	木	授業料(1・2年生)及び校納金口座振替
8	金	一般入学者選抜
9	土	
10	日	
11	月	午前中授業 ③④ラブリバー 交通指導B
12	火	クラスマッチ(終日) ALT来校日
13	水	マナトレ認定テスト(1・2年) 非行防止教室 ALT来校日 ☺
14	木	午前中授業 インターンシップ報告会リハーサル(12:00～)
15	金	午前中授業 ③④インターンシップ報告会
16	土	
17	日	
18	月	午前中授業 合格発表(10:00～)
19	火	終業式 教科書販売(新2・3年 放課後 武道場)
20	水	(春分の日)
21	木	合格者招集日(13:00～) ☺
22	金	企業説明会(2年 就職者 13:00～)
23	土	
24	日	
25	月	PTA年度末役員会(19:00～:会議室)
26	火	
27	水	☺
28	木	離任式(10:30～)
29	金	
30	土	
31	日	

☺…スクールライフアドバイザー来校日

御意見・御感想は電話またはFAXでお願いいたします。

電話：0896-74-2017 FAX：0896-74-7221

## 教務課より

春も近づいてきましたが、まだまだ寒い日が続きます。寒暖の差があるため、風邪も引きやすく、遅刻・欠席がやや目立ちます。御家庭でも十分御注意ください。

## 進路課より

3年生の進路決定状況を報告します。



	進学		
	大学	短大	各種専修
男	2	1	4
女	2	2	7
計	4	3	11

	就職		その他
	一般	公務	
男	28	1	2
女	16	3	1
計	44	4	3

(令和6年2月19日現在)

生徒たちの努力と、保護者及び地域の方々の御協力により、上記の成果を挙げることができました。厚く御礼申し上げます。今年度も有名私大をはじめ、自衛官など公務員にも合格した生徒がいます。

さて、本校におけるインターンシップも今年度で20回目、2年生全員で参加するようになってから14回目を迎えました。インターンシップを通して、挨拶・礼儀から始まるコミュニケーションの大切さ、清掃の大切さを学ぶことができました。この貴重な体験を今後の学校生活に生かしていきましょう。

1年生の皆さんは、「紙のまち魅力化プロジェクト」における生徒活動発表会で、工夫を凝らした内容の濃い発表ができていたと思います。来年度のインターンシップの充実につなげていきましょう。

今年度最後の土居高日よりとなりました。この1年間、保護者の皆様方の御理解と御協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。





# 土居高だより 3月

## 「やってみなはれ」「見とくんはれ」



教頭 山中 達也

今年一月に、両国国技館で開催された大相撲初場所。四場所ぶりに復帰した横綱照ノ富士が優勝決定戦を制して、貫録を見せつける優勝を果たしました。その決定戦では惜しくも敗れたものの敢闘賞を受賞して、念願の大関昇進を果たした関脇琴ノ若の活躍も、場所を大いに盛り上げました。

琴ノ若の父は、師匠でもある佐渡ヶ嶽（さどがだけ）親方（初代関脇琴ノ若）、母方の祖父は、父の師匠であった横綱琴櫻（ことざくら）です。二代目として師匠のしこ名を背負い、猛稽古に励んだ末、師匠を超える番付に昇進を果たしたのです。

彼の昇進と、しこ名に関するお話があります。幼い頃から、祖父に相撲の基本をたたき込まれてきた彼は、現役の人気力士だった父にあこがれ、自分も大相撲の道に進むことを考えるようになります。小学生の彼と祖父との間で、次の会話が交わされていました。

彼 「僕はどうすれば、琴櫻の名前をもらえるのかな」

祖父 「琴櫻という名前は、横綱の名前だ。お前が大関になったら名乗っていいぞ」

以来彼は、父の名を背負いながら、父を追い抜き祖父の名を背負うことを目指して、精進を続けることになったのです。この話を聞いてから、私は彼の取組に、俄然注目するようになりました。

そして、今年一月。祖父と同じ二十六歳で大関昇進を果たしたこともあり、琴櫻への改名はすぐに行われるものと予想されていました。しかし彼は、新大関となる三月の春場所は琴ノ若のしこ名で臨み、五月の夏場所から琴櫻に改名する意向を示したのです。

「この名前（琴ノ若）を大関に上げたかったので、一場所しっかり取ってから継がせていただきたい」

「自分らしく。先代でもない、師匠でもない相撲取りになっていく」

父から受け継いだしこ名を大関の名に高めた上で、祖父の名を背負い、さらに上を目指す。弟子として、子として、孫としてなし得る最高の恩返しをしようとした決断であり、私はとても感心しました。剛の祖父と、柔の父を引き継ごうとする言葉も頼もしく、春場所がますます楽しみです。

日本を代表する企業、サントリーの理念を表す言葉は、「やってみなはれ」です。創業者の鳥井信治郎氏以来、この言葉は、各事業の現場で多くの社員を勇気づけるとともに、その励ましに応える「見とくんはれ」の熱意を生み出しながら、同社の成長を支えてきました。

私は何事も、この「見とくんはれ」の気持ちを持って取り組むことが大切だと思っています。「見とくんはれ」は、任されたことへの感謝と、任務をやり遂げる意志の表明でもあります。強い気持ちと柔軟な気持ちとがバランスよく合わさった状況に自分の身を置くことができる、不思議な響きを持っています。

様々なものを背負うことには、つらさや苦しさが伴います。しかし、「やってみなはれ」と言われると、自分の考えが間違っていないという心強さとともに、信頼に応えようとする意欲が高まっていく気がします。琴ノ若にとっては、幼い頃に掛けられた祖父の言葉こそが、「やってみなはれ」だったのかも知れません。

土居高校で学んでいる皆さんも、実に多くの方々から、期待と信頼に基づく「やってみなはれ」の励ましと支えをいただいているはずです。家庭・地域・学校で示されている、それらの支え一つ一つが、皆さんの生活と学びに欠かせないものであることを、いつも忘れないでいてほしいと思います。

そして、土居高校の「やってみなはれ」に該当するものは、「スクール・ポリシー」と「土居高十訓」です。その中から、今回のお話と重なる項目を一つずつ紹介します。次の新しいステージと自らの高みを目指して、今後も皆さん一人一人が、「見とくんはれ」と力強く進んでいくことを願っています。

○よりよい自分を形成するために根気強く取り組み、将来を切り開いていく力を育てます  
(スクールポリシーから)

○小さなことにも誠意をこめて力いっぱい尽くそう (土居高十訓 九)